

# 神戸市一般廃棄物処理基本計画改定に係る第6回専門部会 議 事 録

## 【開催概要】

日 時	平成27年10月19日（月） 15時～17時00分
場 所	神戸市環境局研修会館

○委員変更に伴う紹介、挨拶

## 【議事 第5次計画素案】

○事務局 （資料説明）資料1 1ページ～36ページ

○中野部会長 はい、ありがとうございました。第2章の終わりまでご説明させていただきましたけども、これまでの説明について何かご質問はありますでしょうか。

○高委員 食品ロスですね。食品ロスは本当にこれ大きな問題と思う。今後、高齢者が増えますでしょう。高齢者や、認知症になられた方、ひとり住まいの方が、たくさん買って冷蔵庫に入れる。それを自分がわからずにまた購入して、また冷蔵庫に入れるというのを私、結構見ております。

いろいろと私も地元で管理しているところがありまして。もう何日も、何か月も前のものがあると、そういう無駄が多いというのは家族の無い人に多い。そのところをどのように注意していくのか。全市的に増えたらどうなるのか心配になりました。市役所の担当部署、お世話する人たち含めて、よく管理していただいたら、多少なりとも無くなると良いかなと思いますし、無駄が省けるとおもいます。

○中野部会長 はい、ありがとうございます。今までの議論とは違う角度からご意見いただきましたけども、ひとり暮らしの方と、高齢者、認知症の方ですね。その方々の食品ロスをもう少し対策を立てていく。

○高委員 各区の民生委員の方含めて今まで社会福祉関係の方がおられますでしょう。人の家に上がることは難しい点が多々ありますが。特に兵庫区は多いと思います。

○中野部会長 商店街連合会として、なんとなく意識してらっしゃるのですか。

○高委員 意識はしていないが、この部会に入りまして一段と意識するようになりました。色々勉強させてもらって、読ませてもらったらね、食品ロスがとても気になる。今まで担当者が説明していただきましたけど。

小さいことが積み重なっていくと大きいですよ。お金のことも含めて、色々とおもいますが、生活保護などをもらっている方も含めて、問題だと思えます。

○中野部会長 時代の背景から出てくる食品ロスの問題に絡みまして、民生委員の方も含めた見守りみたいな食品ロスの管理というものを強化したほうが良いのではないかとというご意見だったのですが、現実そうですね。

○高委員 ごみの件ですが自治会などで、マンションがたくさん建っていますよね。ごみが不法投棄できないように、ちゃんと管理されている。

だけど、まだ各自治会でごみの管理をしているところあり、社会問題になっておりますよね。外国人が多いというところはマナーの問題がある。我々が普段生活しているマナーとちょっと考え方が違う場合があるので。そういう問題はもっと地域

で徹底して、取り組んだら不法投棄も減ると思うのですよ。そういう細かいことをしていただいたほうが良いと思います。

○中野部会長

はい、ありがとうございます。今までの議論で他都市からの転入者で、ルールを知らない方の問題をご指摘いただいたのですが、外国人のマナーはあまりなかったですよ。

確かにそうですね。神戸市のようにとても外国人が多くても日本のマナーをご存知なくて、守れていないことがある。

○高委員

周知していく。

○中野部会長

外国人のマナーもどこかに書いておく。

はい、ありがとうございます。他に何か。

○益尾委員

あの、すみません。質問なのです。14 ページの下なのですけども、コラムのところで事業系の方なのですが、可燃ごみ焼却手数料というのは、持ち込みの手数料ということですよ。

○事務局

そうです。

○益尾委員

通常であれば、各事業所からこの指定袋で捨てられる時には、この指定袋 80 円ぐらいで買いなさい。捨てられた時に回収してもらう。回収する時にはお金はいらないけども、その下の可燃ごみ焼却手数料というのは、直接クリーンセンターに持ち込んだ時に、10 キロあたり何円ということですかね。

○事務局

そうです

○益尾委員

なるほど。

そうでしたら、可燃ごみ焼却手数料のところ、「持ち込みの場合」とか入れたら分かりやすいかなと思いました。

○中野部会長

より具体的にということですよ。

あの、ついでに 14 ページを今見ていただいているので、伺いたいのですけども。今あの、ご意見があった上のところのコラムがあるのですけどね、真ん中のあたりのところ、政令指定都市有料化実施状況と書いてあって「( 円)はいずれも・・・」と書いてあるんですね。

有料化を実施している 9 都市の場合は有料化ですよ。未実施 11 都市のところに「神戸市 (実勢価格 10 円前後)」と書いてありますね。これがまた誤解を招くのではないかと思うのです。単純指定袋制度で別に処理料金は、含まれていませんと言いつつまたここで、10 円前後と書いたら 10 円が有料化だと思われませんか。

ここのカッコ内は、実施 9 都市でのカッコ内の説明の位置づけと、神戸市の実施価格 10 円前後というこれが同じと受け取られないように、そもそも「実勢価格」という言葉がなんの実勢価格かわからない。

これ指定袋のことを言っているのでしょうか。

○事務局

ご指摘のとおり、指定袋の値段ということですよ。お問い合わせいただきますのが、指定袋を買っていることで、処理料金を払っているという誤解があるということでしたので、並べますと非常にわかりにくい。誤解を改めて招きかねませんので、上の有料化とはわかるように変更します。

○中野部会長

そうですね。

少なくとも「( 円) というのは」という説明は、「実施都市」の横に入れるべ

きではないですかね。

○事務局 はい、そうですね。下までかかっており、誤解を与えますので、もう少し丁寧に処理料金等を含んだ値段だと、9都市のあたりに入れたいと思います。

○中野部会長 そうですね。わかりやすい説明を入れないと余計に混乱する。

○事務局 下の指定袋4都市が、指定袋代金だけということですので、そこは注釈させていただいた上で説明をさせていただきます。

○中野部会長 はい、よろしくお願いします。他に何か。

ご質問または、コラムなどの説明をこうしたらよいということはありませんでしょうか。

○小島委員 この基本計画は、誰がご覧になる冊子なのでしょうか。

○事務局 この計画は、神戸市の行政計画ではあるのですが、市民・事業者の方に読んで取り組んでいただかないといけないので、最終的には市民・事業者の方になります。ただ、これをそのまま市民の方に読んでくださいというのは難しいと思うので、概要にしたもの、わかりやすくしたものをこの中から抜粋するなり、表現を工夫するなり、イラスト入れるなりして作るというイメージです。

○中野部会長 コラムのところなどを、抜き出して説明を付けるとわかりやすいんですけどね。是非家庭の主婦の方に伺いたいのですが、26 ページのコラムのところ、食品ロスの定義についてなんですけどね。最初のところに「食品ロス」とは、「本来食べられるにもかかわらず廃棄されている食品」で、具体的には①食べずにそのまま廃棄された食品（手付かず食品）、封も切らずに捨てられる手付かず食品ですよ。②食べ残しがまですいんど。ただ、③については骨や野菜の皮など調理時に除去する際に食べられる部分も過剰に除去されたもの。「過剰に」と書いてあるんですけども、「例えば大根の皮の厚むき」と書いてあるんですけども「過剰除去」ってわかります。

○高尾委員 わかりにくいですね。普通の主婦でもわからないと思いますけど。私も今日は、食品ロスのことについて、意見を言いたいなと思って来たんですけども、確かにそうですね。

これから年末になると、冷凍食品などの整理をしないと正月を迎えられないので、色々ほかす（捨てる）感じになるでしょう。この頃若い人は賞味期限、消費期限というのが難しいんですよ。私らは、開いてなかったらと思っていますけども、若い人は割り方厳しいです。その分きちんと買うと思うんですよ、今の若い人は。でも、ほかすのも多いのかなと思うんですよ。冷蔵庫の中で。

出来るだけほかさないように、皮も薄くむかないといけないし。皮も大根とかニンジンなどは、もう一度刻んで私達の年代は佃煮にしたりしますが、過剰除去」という表現の仕方が難しいかな。

○中野部会長 神戸市の場合は、手つかず食品と食べ残しを主に減らそうとしているんですよ。下の図でも、「過剰除去」というのが目立って出てきていますよね、図で。だけど実際に「過剰除去」というのがどういうことかわからないのに、「過剰除去」という言葉が強調されているのは、わからないという気がしませんか。

○高委員 わかりやすく書いてあればね。意味がわかる。

○中野部会長 過剰除去について何か、説明していただけますか。

○事務局 説明の方が少し国の定めている定義というところから、引っ張ってきているので、ちょっとわかりにくくなってしまっていて、食品ロスの中には3つあって、手付かず食品ということで未開封で捨ててしまう食品と、食べ残しで捨ててしまう食品とここはとてもわかりやすいと思うのですが、ここを取り上げて1万2千円という金額に入れさせていただいています。

過剰除去というのは、そこでいうと食品ロスに国の定義にははまるのですが、現実には調理工夫をしたりとか、減らすこともあるかと思いますが、そこはなかなかご説明したり、協力頂いたりすることは少し難しいところなのかなと、事務局としては考えてしまっていて、この2つ。未開封と食べ残しを中心に取り組みを進めていくという、まずこれを中心にご説明させていただくのが良いのかなと思っている。

○中野部会長 神戸市の場合過剰除去は、どれくらい出ているか、何パーセントくらい占めているというのは、把握されていないわけですね

○事務局 そうですね。調査をしまして、未開封と食べ残しはわかるので、何パーセントとかわかるのですが、過剰除去がどこからどこまでが過剰除去なのかというのが、皮の厚さとかですね、そういうのは、なかなか難しいということもございまして、そこは出来ていないということで、パーセンテージには含んでいないということです。

○中野部会長 先ほど、高委員からのご意見がありましたように、ひとり暮らしの方、ご高齢の方とかから出ている未開封食品の問題が大きいのに、大根の皮の厚みとか、相対的にそんな大きな、把握もできないし問題はないので、この過剰除去は目立たないようにしてしまうか、国の定義と神戸市で対象にしているものが違うということをやんと説明したほうが良いのではないかと。

真面目な家庭の主婦の場合、この通り実行しようと努力するんですけども、過剰除去の何を指しているのかわからないままこういう風にかかれるとなんか未消化な感じがする。

○高尾委員 真面目な人はコンポストなんかに入れますよね。過剰にするというか、コンポストに入れますよね。

○中野部会長 正直に言いましたら、大根の皮の厚みとか調理の仕方で違いますよね。

○高尾委員 そうそう調理の仕方で違いますよね。

○中野部会長 だから、この辺の表現の工夫を。

○高尾委員 あまりこれ意味がないのと違うかな。主婦はそんなに無駄に皮をむいたり、分厚くむかないといけなければむくけど。

○高委員 薄くむくでしょうね。もったいないから。

○中野部会長 過剰除去を強調しなくても良いのじゃないかと。

○高委員 神経質になると思います。

○中野部会長 では次にいってもよろしいでしょうか。では、第3章以降の説明を。

○事務局 (資料説明) 資料1 37ページ～67ページ

○中野部会長 はい、ありがとうございます。

この第3章等につきましては、色々のご意見があるのではないかとと思いますが、いかがでしょうか。

○高委員 私は、子供の時によく親と近くの市場に行ってたんです。あの時あまりスーパーとかなくてね、母親は網の買い物カゴをもって市場へ行っていた。あの頃はごみが少なかったと思います。僕が思うに、ごみが出るのも、もちろん生活する上で仕方がないことだけど、時代の変化と共にあまりに便利が良すぎて、何でも買い物手ぶらでいって手ぶらでいったら、荷物が増える。はっきり言ったらごみが増える。それを持って帰ってきたらごみが増えますね。

アメリカのシアトルに行ってきたんですけど、買い物をしますでしょう。袋が有料なんです。手ぶらで行ったら必ずお金が取られる。何セントか必ず取られる。

だから、そういう風にしていかないと、いつまでもごみは減らないと思う。あまりにも時代が、さっき言った通り便利すぎて、レジ袋をもらっても、それを活用しないとただの袋。うちの嫁さんも活用していない。帰ったらさっそく活用するように言います。

○中野部会長 レジ袋につきましては、レジ袋を渡さない方針をやってらっしゃいますね。コープさんをはじめレジ袋をもらいますと有料ですね。

○高委員 それしたほうが良いですね。

○中野部会長 そうですね。今後もそれを。

○高委員 僅かなお金だけど、それを注意していく。

○中野部会長 商店街では、むしろお買い物された場合の包装とかどうされているのですか。

○高委員 うちの商店街は、どう言ったらよいか。買い物よりも、飲食店が多い。買い物するお客様が少ないですね。

飲食店が多い、商店街にも色々ありますから。

○中野部会長 いろんな形態がある

○高委員 商店街もまた、ごみが出ないような、ごみを出さないようにしていきたいなと思っております。元町商店街で靴を買った時に、袋をくれたけど、袋はいいよ。中身だけ欲しいと言って、中身だけ持って帰ってきた。中身だけで結構です。

○中野部会長 そういう風にされている消費者が増えていますよね。

○高委員 そうですね。持って帰ったらまたごみになるから、そこで処理してもらったら良い。中身だけもらって、ちょっとした工夫がいる。

○中野部会長 コープさんなんか。

○益尾委員 だいぶ前からやっています

○中野部会長 第3章で他に何かご意見ありませんか。

○益尾委員 コープこうべの益尾です。

あえてそうされているのかもしれないですけども、44 ページの所、事業系ごみのところ2万トン削減とありまして、ちょっとページめくっていただきますと 46 ページの所。同じ所2万トンその下に10%と書いてありまして、あえて出さないようにしているのか、出さないようにしているのであれば、出さないようにして。

「家庭系は10%？事業系は2万トンあれ？よくみたら10%？」数字の座りが悪いので、「10」を出さないようにしているのならば、両方約10、10にして市民も事業者も「10、10」と「10」やらないとだめだというほうが、なんとなく直感的に良いかなということと。

あと、削っておられるかもしれませんが、44 ページの吹き出しのところ、「資源

可能な」の「化」が抜けているかなと。

事業者として48ページから50ページのところですが、48、49ページのほうでは、生ごみの発生抑制で。事業者のアクションということで、食品ロスが発生しにくい、小分け食品の販売でこれは大事なことと一方で思いながら、50ページのほうの容器包装で、事業者のアクション。これ相反することですね。小分けするとどうしても容器包装が増える。ひょっとしたらそういう検証もされてあえて、こっちの容器の発生抑制のほうには、小分け食品はしないとか書かないと、書いたら食品ロスの生ごみの発生抑制のほうとバッティングしてしまう考え方ですよ。あえて考え方の整理とか、されているのであればお伺いしたいなど。もしされていないのであれば、そんなことを突っ込む人いないのかなと思った次第です。あと、最後ですが、ビンの再利用ですが、リユースのところなんですけども、リデュース・リユースってなんか座りが良いんですけども、リユースって実際何があるのかな基本的に。

いまさら、「びんか」という気がしないでもなくて、でもあえて、新しくびんをあげてはるならそれは良いかなと思いますが、他にトピックスはないのかなと思いました。

最近、フリーマーケットとか、市民がいっぱい六甲山上とか摩耶山の広場でみんなであそこについて、観光も活性しようという動きがあったと思うけど、市としてそういうのは、フリーマーケットとか、リユースという切り口でフリーマーケットですでにされていたらあれですけども、されていないのであればそういう意味合いもいれはったら面白いかなと思った次第です。すみません。長々と。

○中野部会長

はい、ありがとうございました

まず、10%削減のことと。2番目の小分けは、すればするほど容器包装が増えるのではないかということと。もう一つはリユースの例としてびん以外に何かあるのではないかという。

3つについてご説明をお願いします。

○事務局

はい、数字のところは、見た時にわかりにくいので、家庭系、事業系それぞれのところは表記を変えたいと思います。ありがとうございました。

2点目の小分けを生ごみの食品ロスを優先するのか、容器包装を優先するのか、今回のあれでは綿密な比較はしていないのですけども、国のほうでは、やはり容器包装自体は食品ロス無くすための部分、必要な部分もあるという話もありまして、容器包装によって賞味期限が長くなるとか、腐らずに最後まで食べられるという声もあるという話ですので、そこはちょっと個別ケースに応じてどちらが良いというのは難しいと思っているのですけども、基本的にはごみが少なくなる目的が達成できるようにバランスをみながら、どちらがということもないのかなと思うのですが、間違った啓発をしないように気をつけたいと思います。

リユースの件は、確かにびんはペットボトルや他の容器になったり、びん自体見なくなっているということもあるのですけども、国はなかなかリユースのシンボリックなものが無いということで。繰り返し使えるものとしてリターナブルびんをあげてらせていただいていることがあります。

市民からするとフリーマーケットであるとか、それも情報の提供をしたり協賛さ

せていただいたりということはしている。各区の祭りなどで、衣料の販売をしたり、支援をさせていただいていますけども、あまりリユースということでは言わせていただいたことがないので、その辺はみなさんわかりやすいので、もう少し工夫できるのかなと思います。

若い人を中心に民間のそういうリサイクルショップが街に増えてきている。今回アンケートをとりましても5年前より利用度が増えているというのもありますので、もう少し計画が決まりましたら、調べまして皆さまにお伝えし、リユースが進むような施策ができないか考えたい。

○中野部会長

はい、ありがとうございます。リユースの概念では若い人は、インターネットを使って売買していますよね。あれも入っていますよね。

○事務局

そうですね。概念としては入っていますね。

○中野部会長

ありがとうございました。他にありますか。

今日は事業者の方から、ずいぶんたくさんのご意見をいただいたんですけども、こういう風にまとまってきたのですがいかがでしょうか。10%削減の話とか、目標でもあるとも思いますけども。

○鳥越委員

削減目標の10%は可能かなと前回は申し上げたつもりなのですが、今日のお話を伺って2点。1つ目がレジ袋の有料化の話ですね。これ実は弊社の社長と先週このことで話す機会がたまたまあったのですが、私共の食品スーパーは、兵庫県下で42カ店ありまして、内14カ店だけ有料化というか、お使いになるのであればお金をください。まさにコープさんがやってらっしゃる形なんですけども。

神戸市内でやっているのは、北区と西区だけでそれ以外では出来ていない。それは理由がございまして、いちばん最初にうちのスーパーでしたのが姫路の店でして、それをやった瞬間に売上が激減したんですね。姫路といっても高砂に隣接するようなどころだったんですけども。姫路では有料化を認めますが、高砂は認めませんということで、試しにやってみようということで、うちの姫路の店をやったものの、その次の月から売上が激減したということで、一種レジ袋の有料化がアレルギーになっていまして。

おそらく、神戸市の北区・西区というのは、協定を結んでいらっしゃる、やるのなら手をあげてくださいということで、その並びでしている。おそらくそれ以外の区ではしていないはずですよ。

うちの社長から言付かってきたのは、是非とも神戸市主体で全区でそれをしてください。じゃないと、コープさんは組合さんがいらっしゃるバックボーンがありますが、私共は、普通の食品スーパーですので、隣に有料化していないスーパーがあつて、うちがそこでレジ袋を有料化しますとなると、売り上げに直接響いてきます。事業者にしては死活問題になりますので、本当にする気があるのであれば、行政主体でレジ袋を減らそうというおつもりがあればやっていただきたい。実際その行政主体でしている自治体もあるという認識している中で、なぜ神戸市ができないのかなというのが疑問ですし、いろんな団体のことのしがらみがあつて、出来ない理由は重々承知の上でこういうことを申し上げているのですけども、本気でレジ袋を削減していきたいというお考えであれば、そこは本当に真摯に向き合っていただきたいというのが私の希望であります。

それともう1つ。2Rの話がずっと出てきていて、食品ロスの話も出ていたのですけども、なぜ4Rじゃないのかなというのがあります。

そもそも、リユース、リデュース、リサイクル、その前にリフューズがあったはずなんです。無駄なものを買わないがあったはず。

無駄なものを買わなければ未開封の商品なんか出てこないはずなんです。認知症の方が毎日同じものを買ってらっしゃるという話も途中でお話があったかと思えますけども。正直、この話はやりたくなかったのです。私達スーパーですから、無駄なものを買わないでくださいというのは、売上げが減るので身を切るような思いでこの発言をさせていただいているのですけども。

未開封の食品というのは、おそらく無駄なものを買ってらっしゃるはずなんです。それならば、2Rじゃなくて4R。4Rを行政として推進されたほうが、あまり申し上げたくないのですけども、おそらく13%の未開封の食品というのは無駄買いですね。売上げ欲しいから本当は言いたくないのですけども、これは着手したほうが良いと思った。

#### ○中野部会長

個人的にという事ですね。

2つのご指摘をいただいたのですけども、まずレジ袋の話ですけども、本気でやるなら行政主体でやらないと、お店だけが不利益を被る可能性があるのをどこをどう考えているかということと。

もう一つは2Rじゃなくて3Rじゃなくて、4Rでリデュース、リユース・リサイクルの前にリフューズを加えてはどうかと。

兵庫県はリペアをいれて5Rにしてくださいと。色々ありますけども、まずレジ袋の有料化についてお願いします。

#### ○事務局

レジ袋の有料化は、神戸市はご承知のとおり、西区・北区は今協定方式で地球環境市民会議、市民の方と事業者の各店舗の方と神戸市で三者協定という形で、もちろん消費者も協力してください。事業者もやります。行政も仲立ちといいますか、音頭取りますということでやっています、そういう方式でやりましょうと国の方でも話をしています。今、市内の状況では、なかなか西区・北区からまだ出ていないのですけども、年に会議をさせていただいて消費者の方にも入っていただいてやっているのですけども、先ほどの話じゃないけども、事業者の方もみんなが一斉にしないと、参加する・しない事業者さんがあると、それは困るという話があります。

我々もやるなら全員で。なかなか法律とかで、強制的にすることは出来ない。要はお客さんへのサービスを縛るのかという話もあって、出来ないということで、そういうやり方もひとつという話もよく言われるんですけども、出来ない話もあって。今は各事業者さんに必ずお願いすると、売上の話とか言われるのですけども、出来るだけ参加していただけるように説得等をですね、お願いしているという状況で、みなさん賛同が得られる段階であれば、出来るだけそういう形で実施、早く繋がっていきたいということで、取り組んでおりますので、引き続きご協力いただきたいと思っています。

#### ○中野部会長

身を切る思いのリフューズの話は。

#### ○事務局

リフューズのところはですね。確かにリフューズと言ったり色んな言い方がある



のですけども。今まで3Rと言っていて、今回も2Rという話を今日この議論の中にも見られたんですけども。

それもまだ定着していないと、認知度がまだまだということでございましたので、まずはいったん言葉の定着をさせていただけたらなと。

他にもいろんな「R」があって、言い方があるかと思うんですけども、今まで「3R」ということで、進んできていますのでこれをしっかりと定着させていただくというのはどうかな、と思っております。

○中野部会長

国も3Rと言っているので、ここでまた4Rにするとまたちょっと混乱があると。

37 ページでも無駄を無くし、ということは最初に言っているので、無駄を無くすという方向を指してらっしゃるんですけども「リフューズ」という言葉であえて「4R」というところまでは入っていないということでよろしいでしょうか。

レジ袋もなかなか難しいですね。

○高委員

レジ袋といっても、事業者が色々あるとは思いますが、事業者のお店の付加価値、何が付加価値か、品物が良かったらね、そこのお店に来ますよ。消費者の人はね、目も肥えているし、口も肥えている。何がいいものか、何が安いもので、何が悪いものか。美味しかったら値段が高くて買っていく。そこのところの付加価値を作っていくことが必要。

僕も事業者代表で来ているけども、市民目線から見たらね。やはりいい品物買って、そこにレジ袋が無かったとしても、そこのお店に行きますよ。良い品物が欲しいから。売上の事を色々と言いましたけど、場所によっては大変なのはわかっているけど。

○中野部会長

しのぎを削ってらっしゃるんですね。付加価値もなかなかね。

○高委員

付加価値が高かったら、やはり、そこに買い物に行きますよ。少々高くても。品物が安くても買に行かないと思う、安くても悪かったら。

○小島委員

食品廃棄物の件で提案があります。かなり具体的なものなので是非ご検討いただきたいんですけども。今、フードロスダイアリーの調査を考えているんですが、一般的な家庭でどれくらい野菜、どんなものを捨てているのかという日記をつけてもらうような調査が出来ないかなということを考えています。

そこに廃棄理由やどれくらいの量を捨てたのかということ、ずっと書いていってもらうのを、実はイギリスのテスコというスーパーマーケットという大きなところがありますのと、トーラップというごみの研究期間があるんですが、そこが協働でやっていて、イギリスではかなり進んでいて対策が取られているので。

イギリス人が出来て神戸市民ができないとは思いませんから、ちょっとサンプルとしてですね、フードスタイルが出来たら良いなと思っています。

そこから得られるというのは、ダイアリーで深い消費行動が絶対にわかってくるはずなので、ここを研究して施策に活かしていけないかなと思っています。

例えば心理学の手法を使ってですね、なるべくフードロスがないような仕掛けみたいなものが出来たらなと思う。例えばこれは全然反対の方向なんですけども、人間は売らないと言われると買いたくなるそうなんです。そういうなんというのかな心理学みたいな手法を取り入れながら、買い方のじゃなくて売り方の提案みたい

なのが出来たらなと思っています。例えば人参なんかでも3本売りなんかが多いんですけども、実際に1本は腐らしてほかしているケースが多いよということがわかってくれば2本売りで小売業者さんに販売をやってみてくれへんかなと、そういう具体的な提案で実際に減らしていけるんじゃないかなという気がしますので、可能であればこういった調査をさせていただけたらなと思います。

○中野部会長

はい、ありがとうございます。

フードロスダイアリーの。認知心理学で記録するダイエットダイアリーとかずっと日記をつけていくというのが、そして認識するというのが色んなところで提案されていますね。

フードロスダイアリーも一つの方法じゃないかな。そうすると反省ができるのかな。

○小島委員

そうですね、売り方に今、小売業者さんもそのおそらく売れ筋とかから見ながら、商品を3本入にされたりと思うんですけども。もしかしたら、逆から発見ができるかもしれないなど。よく捨てているらしいです。なすび1本だけとか。そういったことから施策に活かせるんじゃないかなと思います。

○中野部会長

はい。時間があまりないですが、ちょっとご発言のなかった岡本委員さんいかがですか。ご説明を聞かれて、何かご意見があれば。

○岡本委員

最初に、高さんが言われました。

なかなか認知症の方は大変なんです。ひとり暮らしの方がかなり高齢者にも神戸市にいらっしゃいます。この辺の見守りにつきましてね、民生委員が行けるところと、行けないところがあるんです。実際には。

その方に対してどうやってどの経路をたどっていくかというのがなかなか難しい問題だと思うんですよね。ケアマネさんが入っている方、ところであれば冷蔵庫とかそういうのは見ていただけるんですけども、ひとり暮らしをしている方でそこまで立ち入る権利がありませんから、そこまで出来ないというのが実際だと思うんですね。

○高委員

むずかしいですね。

○岡本委員

はい。そのあたりをもう少しできれば。

○中野部会長

福祉と手を組んで。

○岡本委員

みなさんにお知らせするような、広報の仕方とかをする方が良いと思うんですけどね。

○中野部会長

具体的な方法となると難しいところがありますね。

○岡本委員

そうですね。

○中野部会長

先ほどのいただいたご意見からすると。

38 ページの施策展開の基本的考え方というところがあるんですけどね、このところでもう少し高齢化社会に対応したとか、今神戸市のトレンドとして、高齢化社会だとか、外国人が多いという地域特性とか、新築を含む集合住宅が多いという、それに対してということ、今の具体的なことにはなかなか対応できないところがあるんですけども、そういった時代のトレンドに合わせた対応が必要だということはこの基本的な考え方のどこかでちゃんと書いたらどうでしょうかと思うんです。

これ、全体的に見まして、高齢化社会の対応のところもちろん書いてあるところ

もあるんですけども、段々そういう風になってきているということとか、これまでも何回もご意見があったと思うんですけども、集合住宅に対するルールの周知徹底というところはあまり、強調されていないんですけども神戸市にとってはすごく大きな問題なので、もうちょっとそういうことを基本的な考え方とかどこかで書いておいてはいかがかなと思いましたが。他にどなたかお一人くらいなら時間があるかと思うんですが、何かご意見ありますでしょうか。

○高尾委員

結局最終的には事業所の方にもある程度の身を切っていただきたいと私は思いますね。それと一般市民も、もっともっと啓発事業みたいなものをして、それも役所の方とか事業所がやって、事業所じゃなくて環境ですね。環境の方がもっと一般市民に啓発してごみの分別の徹底とかをまだまだ出来ていないと思うんですね。私ももっともっとこれから継続して地道に必要なと私は思います。

○中野部会長

当たり前の基本的なルールを地道に。

○高尾委員

実際の事業所の方は現場でね、立ち番したり、そういうのを実際にすると効果があるんです。最近そんな事が少ないと思うんです。もう少し啓発事業としてそういう事を、こうしないといけないと自治会などにさせて欲しいという風に言われた方が良いと思うんですね。やっぱり、そうするともっと効果があがるんじゃないかなと思うんです。

○中野部会長

そうですね。あまり突っ込んだようなところをいうんじゃないで地道なこと。

○高尾委員

地道で良いんです。

○中野部会長

はい、ありがとうございます。

そうしましたら、ワークショップとかキャッチフレーズの件に関して。

○事務局

ひとつ事務局から提案ということなんですけども。

これまでの議論でこういう課題とか、方針について具体的な行動につなげてもらうためのキャッチコピーや、具体的な行動。まだまだ具体性がないので、そういうことを盛り込んだ方がいいという意見をいただいております。

今後、市民の方や事業者の方からご意見、アイデアを、やはりやっていただける市民目線、事業者目線のアイデアって大事だと思っていますので、そういったことを例えば、ワークショップだったりアイデアを募るとか、またその中でデザイン都市ということで、デザインの工夫もさせていただけたらと思っています。

具体的にはごみの10%減らすよ、といったことでありますとか、先ほど出ました食品ロスであるとか、水切りであるとか、紙のリサイクルであるとか、そういったことの具体的な取り組みのアイデアのキャッチコピーをそういった形で進めさせていただきたいと考えていまして、ここにはちょっと具体的に書けていないわけなんですけども、そういった形をお願いできたらと思っています。

○中野部会長

素案に反映する文言につきましては、お忙しい中もう一度お集まりいただくのも難しいと思いますので、部会長一任でよろしいでしょうか

委員全員

はい（了承）

○中野部会長

ありがとうございます。では、計画の取りまとめについて事務局よりご説明をお願いします。

○事務局

本日活発なご議論をいただきまして、また、いただいた意見を反映しまして、また個別にご案内させていただきたいと思っています。その上で次回開催します環

境保全審議会のほうに素案を説明するということになっておりますので、よろしく  
お願いしたいと思っています。

その後ですね、12月の下旬頃からパブリックコメントということで市民の意見  
の方を募りたいと、1ヶ月程募りたいと思っています。それを受けて次の専門部会。  
1月の下旬頃考えていますので、その時にまたご意見いただきたいと思っておいま  
す。

また、素案をまとめるに当たりまして、別紙に事務局への連絡表というのを付け  
させていただいています。いったん帰らえてこれやっぱり言うといたほうが良いか  
なとか、こういう事もあるなというのがあれば遠慮なくそちらのほう書いていただ  
いて事務局宛にお送りいただきましたら非常に助かりますのでよろしくお願いま  
したいと思います。

以上をもちまして、本日の専門部会を閉会させていただきます。本日は熱心なご  
議論ありがとうございました。

(以上)